

# 歴史散歩



## はぜあんらくじ しょうろうもん どうしょう 波瀬安楽寺の鐘楼門と銅鐘

一志町井関から県道一志美杉線を波瀬川に沿って緑豊かな山間を進んで行くと、波瀬地区に入ります。地区の中心部に向かい、国の登録有形文化財の旧一志波瀬郵便局を過ぎると、レトロな外観を持つ波瀬出張所があります。波瀬出張所の手前の坂道を上っていくと、旧波瀬小学校の校舎と校庭の境に「雞足山」「安楽寺」と刻まれた二つの小さな石柱が建っています。さらに、小学校の敷地内を横切る参道に歩を進めると堅牢な石垣とその上に建つ安楽寺の鐘楼門が見えてきます。

安楽寺の鐘楼門は、総ケヤキ造りの入母屋造本瓦葺2階建てで頭貫に雞足山の山号を掲げています。左右の柱間の羽目板に刻まれた華やかな花模様や白く縁取られた曲線が優美な花頭窓など、凝った意匠が目を引きまします。「一志町史」に掲載されているこの鐘楼門の棟札に関する記述から、寛政元(1789)年に建立されたものと考えられます。

また、楼上の梁に吊られた口径1m、高さ約

1.3mの銅鐘(写真)は鐘楼門より古く、中山村(現在の栗真中山町)の鋳物師として知られた安楽氏によって享保11(1726)年に造られたもので、安楽氏鋳造の銅鐘の代表作の一つとして市の文化財に指定されています。鐘には安楽寺の沿革などがびっしりと



銅鐘

と刻みこまれているのですが、鐘楼門の高欄の傷みが進んできたことから、現在、楼上に立ち入ってそれを確認することはできません。

近くで見るとはかなく、5月・10月の安楽寺の法会、大晦日には鐘が突かれるとのこと。花頭窓からのぞくその姿を見上げながら、山間に響きわたる鐘の音にしばし思いをめぐらせてみてはいかがでしょうか。



花頭窓



鐘楼門

